

公共施設に関する市民アンケート調査結果

■市民アンケートの目的

青梅市の公共施設は、昭和 30 年代以降の高度成長期に伴う人口増や行政需要の高まりを背景に、市民ニーズ・行政サービスの多様化が進み、急速に整備が進められてきました。平成 24 年度末で、総計 305 施設を保有し、延床面積 38 万㎡ 超という膨大な量となっています。

これらの施設の中には、老朽化が急速に進行する築 30 年以上の公共建築物が多く含まれていることから、今後、機能を維持・更新するためには、定期的な修繕や大規模な改修・建替えなどに多額の費用が必要となります。

しかしながら、厳しい財政状況の中、現在の施設配置状況のまま維持管理費用を負担し続け、さらには老朽化等に対応する改修費用や施設の更新費用を確保していくことは、市財政にとって極めて大きな負担であり、すべての施設を維持していくことは困難な状況となっています。

さらに、全国的な人口減少、少子高齢化等の社会環境の変化による人口構造や市民ニーズの移り変わり、市民参加意欲の高まりへの対応など、地域社会を取り巻く情勢は著しく変貌してきています。

そこで、青梅市では、市全体を見渡した上で公共施設の統廃合や再配置を進め、施設保有量の適正化と効率的・効果的な施設配置を目指した取り組みとして、平成 27 年度に「(仮) 公共施設再編計画」を策定します。

そのため、公共施設に関して、広く市民の皆様のご意見をお聴きし、問題意識を共有しながら課題の解決に向けた対応を検討するため、公共施設に関する市民アンケートを実施致しました。

■市民アンケートの概要

- 調査時期 : 平成 26 年 12 月 5 日から平成 26 年 12 月 26 日まで
- 対象者 : 無作為抽出した青梅市在住の 18 歳以上の 2,000 人
- 調査方法 : 郵送による配付、回収
- 設問数 : 16 問
 - 公共施設の現状と課題 (次ページに紹介)
 - 公共施設の利用状況 (2 問)
 - 市が保有する公共施設についての考え (6 問+自由記入)
 - 回答者属性 (7 問)
- 回答者 : 758 人 (回答率 : 37.9%)

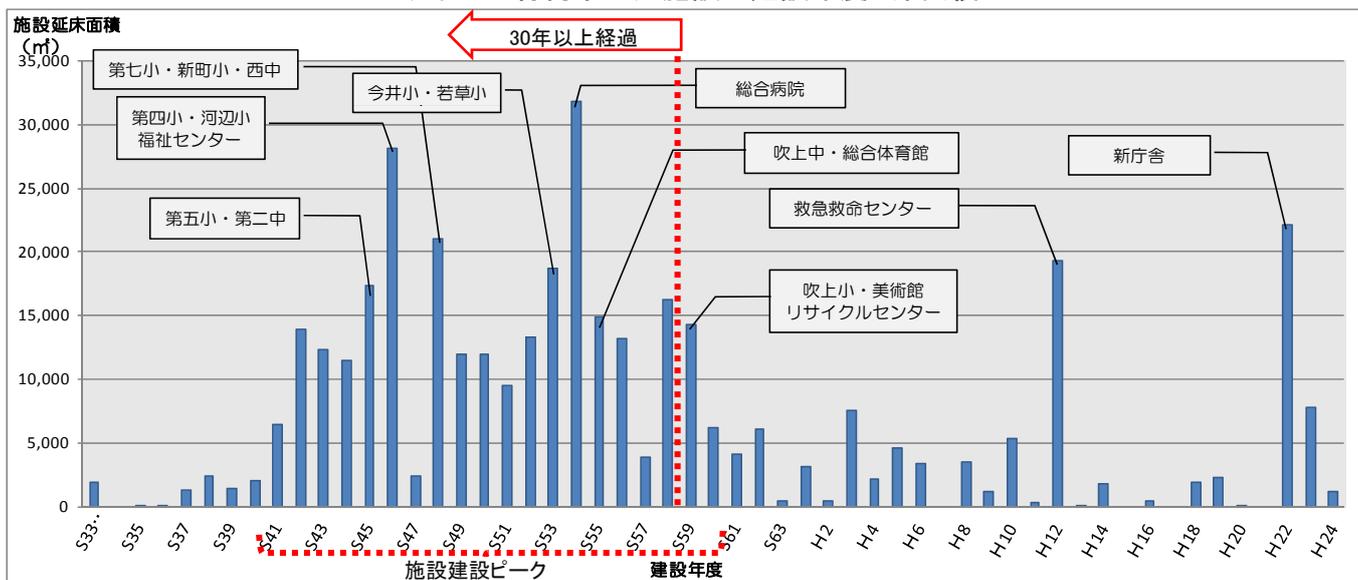
■ アンケート同封資料『青梅市の公共施設の現状と課題』

- 青梅市が所有する公共施設は、平成24年度末で、**305施設、全ての床面積を足すと38万㎡を超え、東京ドーム8個分**になります。(右表)
- 公共施設の多くは、昭和40年から60年の**高度成長期**に、人口増を背景にした多くのニーズに対応するために、**急速に整備が進められました**。(下グラフ)
- 多くの施設で、**老朽化が進行**しており、今後**10年後には、約7割の面積が、建築物の一般的な耐用年数である40年を超える**こととなります。今後、これらの施設の機能を保つためには、**定期的な修繕や大規模な改修、建替えなどが必要**です。
- しかしながら、景気の低迷や人口減少など、財政状況が思わしくない中、**現在の公共施設全てを、現況配置のまま、維持管理し続け、老朽化に対応する改修費用や更新費用を確保していくことは、困難な状況**にあります。

表 - 青梅市の公共施設(H24度末)

施設分類	施設種類	施設数	床面積	割合
学校施設	校舎	26 施設	156,100 ㎡	47.31%
	学校体育館	27 施設	27,630 ㎡	
病院・診療所	病院・診療所	7 施設	45,837 ㎡	12.59%
	医師住宅・看護職員住宅等	6 施設	3,064 ㎡	
市民センター・社会教育施設	市民センター施設	23 施設	17,673 ㎡	10.91%
	文化・社会教育施設	12 施設	13,958 ㎡	
	スポーツ施設	15 施設	10,735 ㎡	
市営住宅	市営住宅	26 施設	39,348 ㎡	10.13%
庁舎・消防施設	市庁舎等	3 施設	26,207 ㎡	7.64%
	消防施設他	54 施設	3,445 ㎡	
福祉施設	福祉施設	10 施設	16,110 ㎡	4.50%
	学童保育所	5 施設	1,368 ㎡	
環境施設	葬祭場等	2 施設	4,226 ㎡	4.96%
	環境施設	6 施設	6,230 ㎡	
	下水ポンプ場	20 施設	6,383 ㎡	
	公園・公衆便所	47 施設	1,415 ㎡	
	公園施設(管理棟等)	7 施設	1,000 ㎡	
その他	その他	9 施設	7,604 ㎡	1.96%
合計		305 施設	388,333 ㎡	100%

グラフ - 青梅市公共施設の建設年度と床面積



- また、公共施設の総床面積を人口(14万人弱)で割ると、**人口1人あたりの公共施設面積は約2.8㎡/人**となりますが、これは東京多摩地区の市町と比べると**比較的大きい値**です。
- 青梅市の人口は、**平成42年には12万人を切るまで減少**すると予測されており、1人あたりの面積は更に大きくなることから、**公共施設自体を減らすことを検討すべき時期**にきています。

- 青梅市では、これらの課題に対応するために、近年、「公共建築物保全整備計画」「公共施設再編基本方針」「公共施設白書」などの取り組みを始めており、**来年度には「公共施設再編計画」を策定する**予定です。
- 公共施設に関する具体的な取り組みとして、主に、**①保有する公共施設量の抑制・圧縮、②機能の集約化や複合化による施設の統廃合や再配置、③民間事業者の活用や利用者負担などによる財源確保**、などを検討していきたいと考えています。

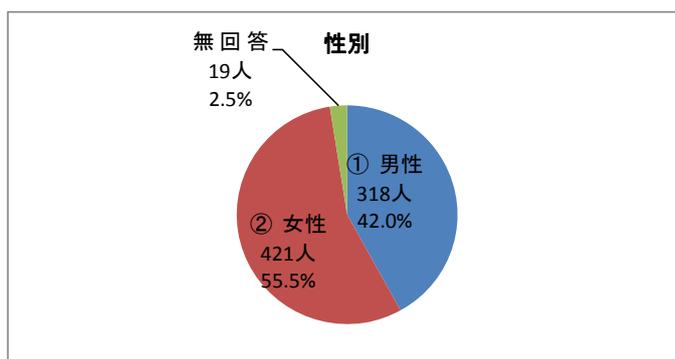
■ 公共施設に関する市民アンケート結果

◎回答者属性

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	計
男性	3人	16人	29人	48人	49人	96人	77人	0人	318人
女性	2人	31人	49人	56人	72人	114人	97人	0人	421人
無回答	0人	0人	1人	0人	1人	0人	1人	16人	19人
合計	5人	47人	79人	104人	122人	210人	175人	16人	758人

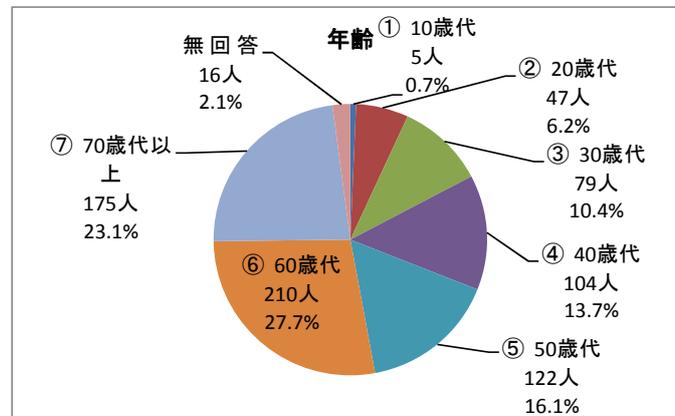
【問 10】 あなたの性別について、以下から1つ選んでください。

性別	回答数	割合
① 男性	318人	42.0%
② 女性	421人	55.5%
無回答	19人	2.5%
合計	758人	100.0%



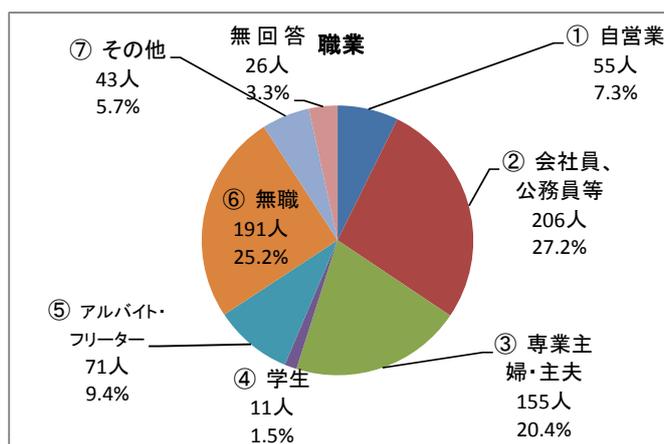
【問 11】 あなたの年齢について、以下から1つ選んでください。

年齢	回答数	割合
① 10歳代	5人	0.7%
② 20歳代	47人	6.2%
③ 30歳代	79人	10.4%
④ 40歳代	104人	13.7%
⑤ 50歳代	122人	16.1%
⑥ 60歳代	210人	27.7%
⑦ 70歳代以上	175人	23.1%
無回答	16人	2.1%
合計	758人	100.0%



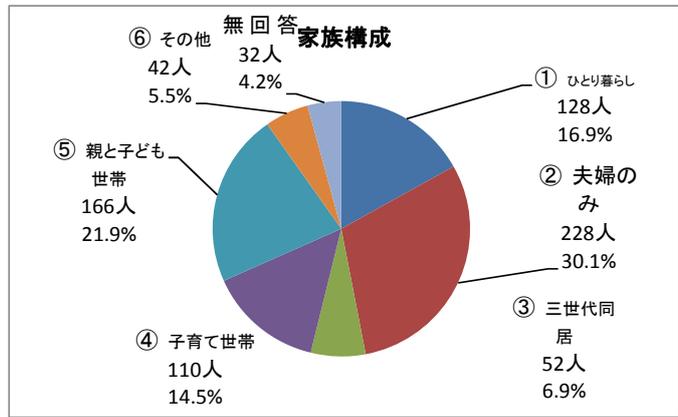
【問 12】 あなたのご職業について、以下から1つ選んでください。（任意）

職業	回答数	割合
① 自営業	55人	7.3%
② 会社員、公務員等	206人	27.2%
③ 専業主婦・主夫	155人	20.4%
④ 学生	11人	1.5%
⑤ アルバイト・フリーター	71人	9.4%
⑥ 無職	191人	25.2%
⑦ その他	43人	5.7%
無回答	26人	3.3%
合計	758人	100.0%



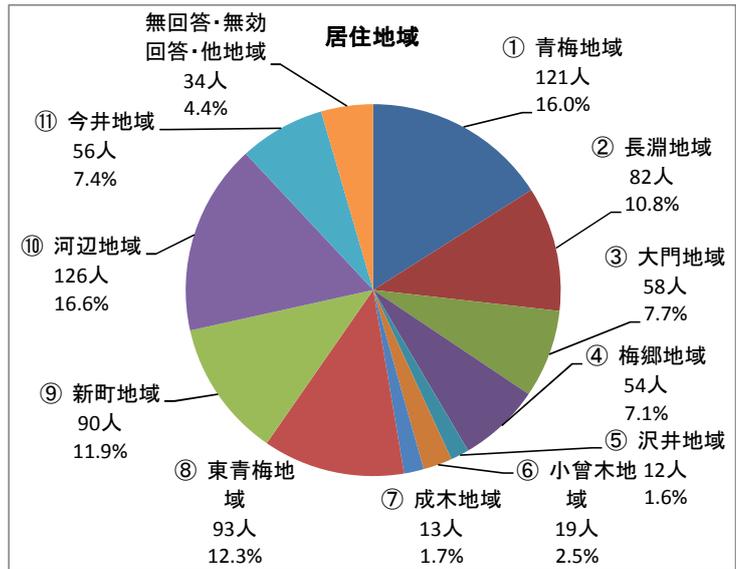
【問 13】 あなたの現在の家族構成（同居）について、以下から1つ選んでください。（任意）

既未婚	回答数	割合
① ひとり暮らし	128人	16.9%
② 夫婦のみ	228人	30.1%
③ 三世帯同居	52人	6.9%
④ 子育て世帯	110人	14.5%
⑤ 親と子ども世帯	166人	21.9%
⑥ その他	42人	5.5%
無回答	32人	4.2%
合計	758人	100.0%



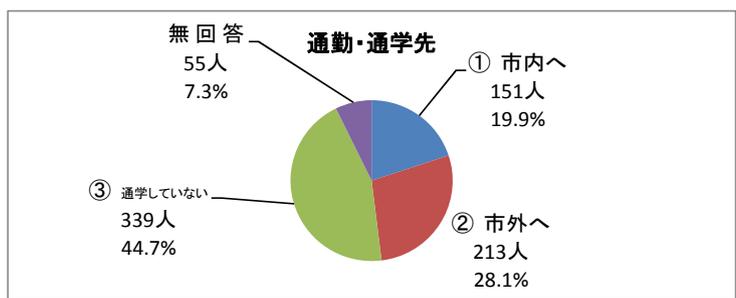
【問 14】 あなたの住んでいる地域について、以下から1つ選んでください。

居住地域	回答数	割合
① 青梅地域	121人	16.0%
② 長淵地域	82人	10.8%
③ 大門地域	58人	7.7%
④ 梅郷地域	54人	7.1%
⑤ 沢井地域	12人	1.6%
⑥ 小曾木地域	19人	2.5%
⑦ 成木地域	13人	1.7%
⑧ 東青梅地域	93人	12.3%
⑨ 新町地域	90人	11.9%
⑩ 河辺地域	126人	16.6%
⑪ 今井地域	56人	7.4%
無回答・無効回答・他地域	34人	4.4%
合計	758人	100.0%



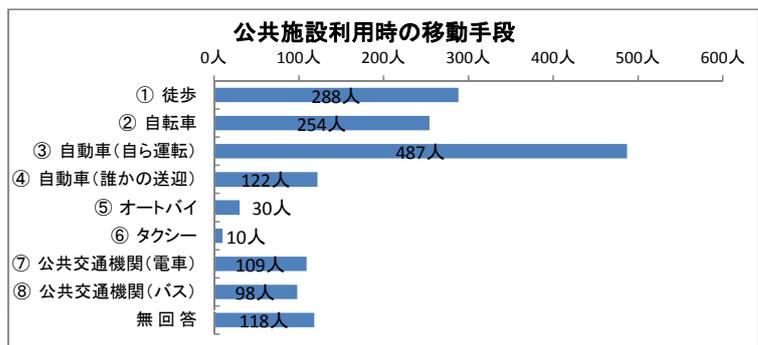
【問 15】 あなたの通勤・通学先を以下から1つ選んでください。

市内通勤	回答数	割合
① 市内へ	151人	19.9%
② 市外へ	213人	28.1%
③ 通学していない	339人	44.7%
無回答	55人	7.3%
合計	758人	100.0%



【問 16】 あなたは普段、青梅市の公共施設（【問 8】の施設例を参考）まで、どんな手段で行っていますか 頻度が高いものを以下から2つ選んでください。

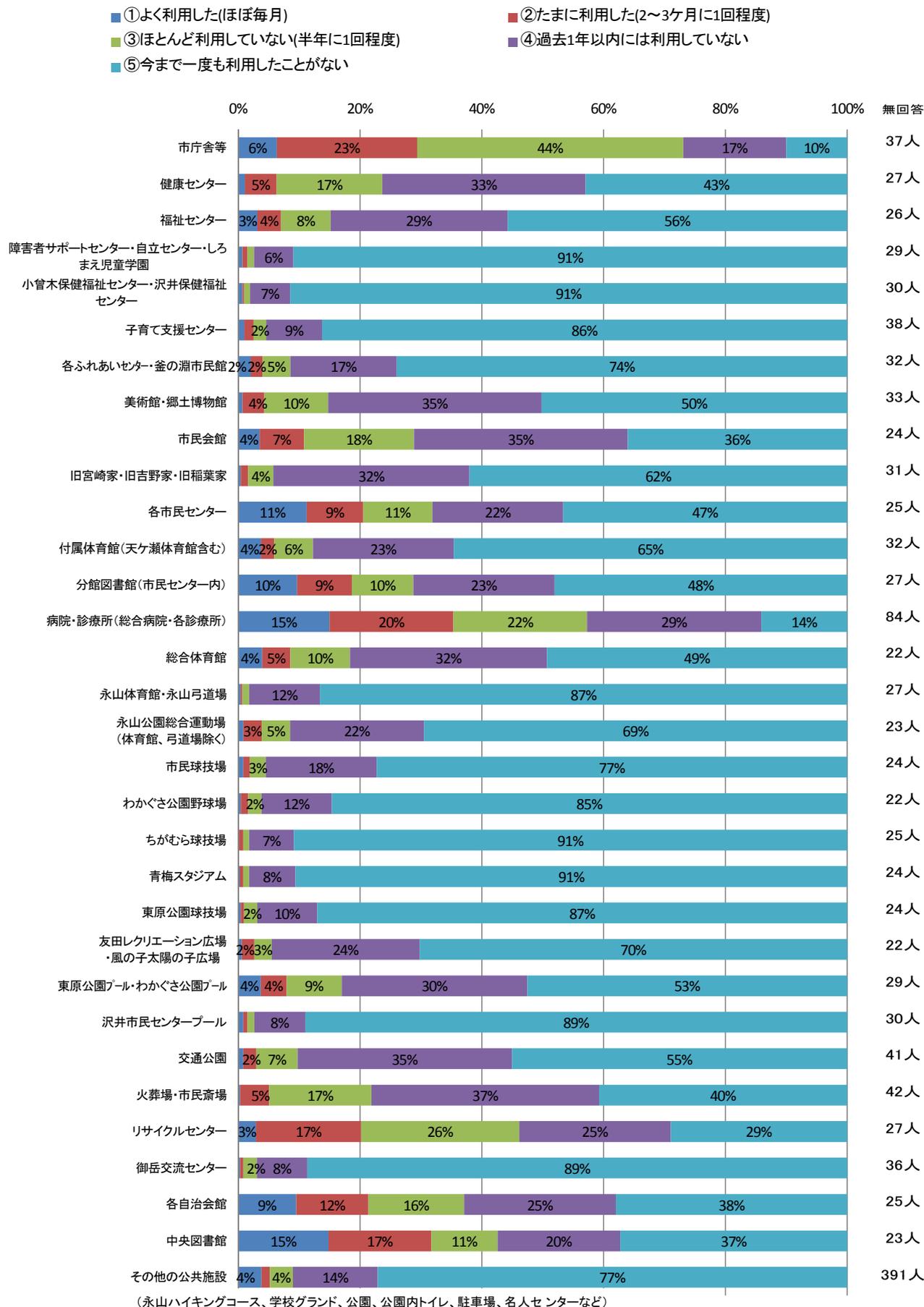
移動交通機関	回答数	割合
① 徒歩	288人	38.0%
② 自転車	254人	33.5%
③ 自動車（自ら運転）	487人	64.2%
④ 自動車（誰かの送迎）	122人	16.1%
⑤ オートバイ	30人	4.0%
⑥ タクシー	10人	1.3%
⑦ 公共交通機関（電車）	109人	14.4%
⑧ 公共交通機関（バス）	98人	12.9%
無回答	118人	15.6%
合計	1,516人	200.0%



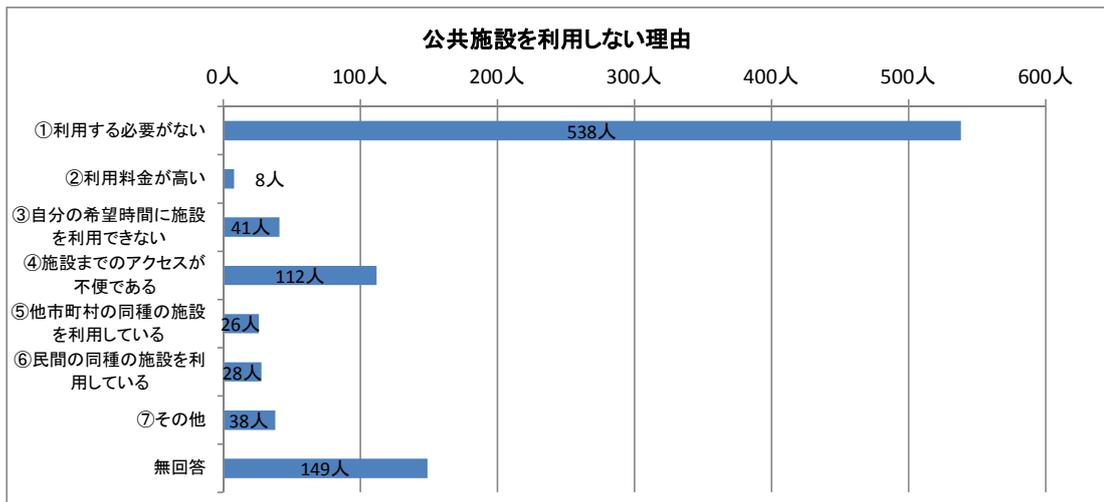
◎公共施設に関する設問

【問 1】 あなたは過去 1 年間に青梅市の公共施設をどのくらい利用しましたか？
施設ごとに1つ選んでください。

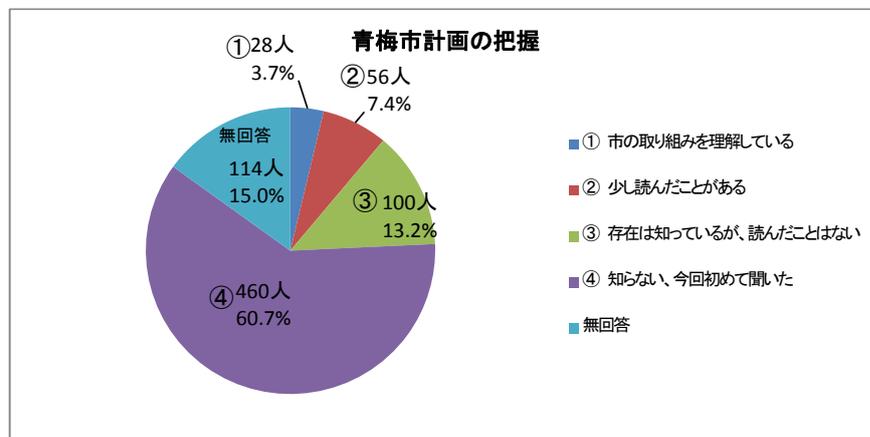
公共施設利用状況



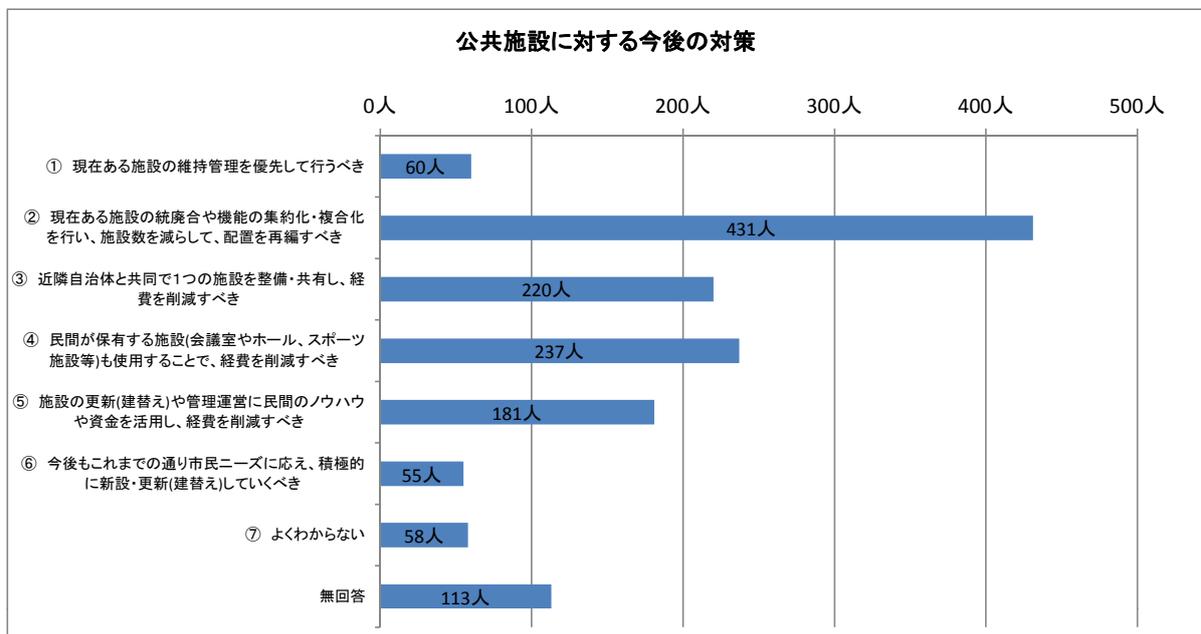
【問 2】 あなたが青梅市の公共施設を利用していない理由を全て選んでください。(複数回答可)
問 1 で「⑤今まで一度も利用したことがない」と回答された方のみ



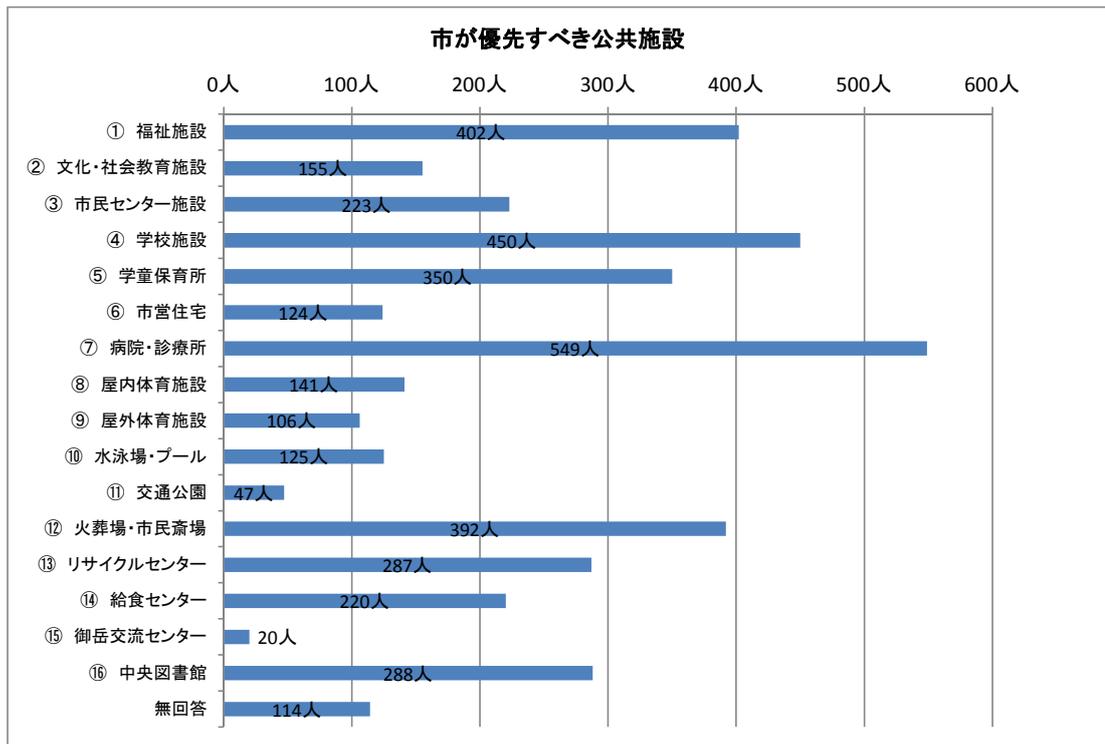
【問 3】 現状を踏まえ、市では「公共施設白書」や「公共施設再編基本方針」を策定し検討を始めています。これらの計画の存在を知っていますか？ 1つ選んでください。



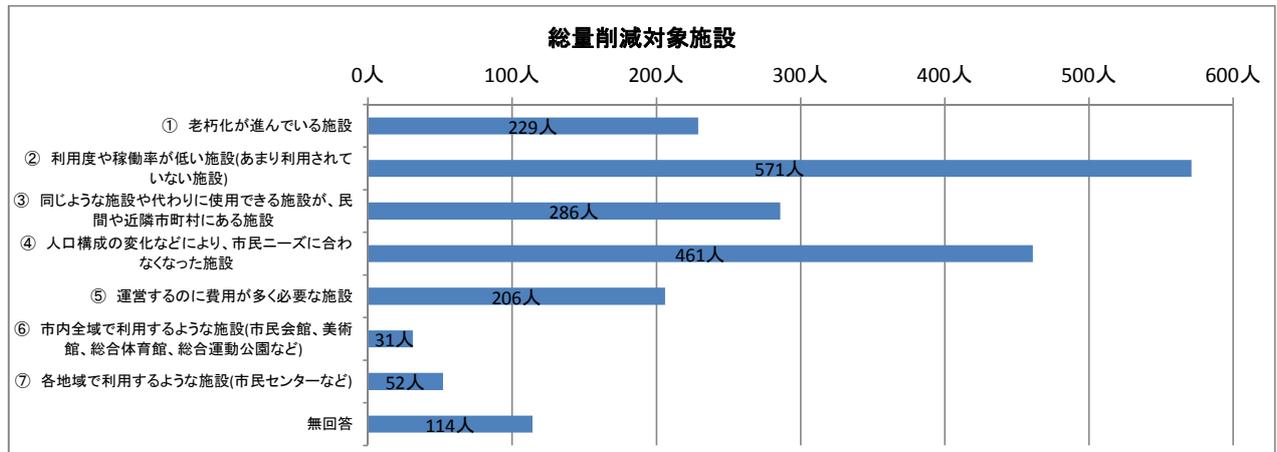
【問 4】 今ある公共施設を全て維持していくことが困難な中、公共施設のあり方を見直し、有効活用などによって施設にかかる経費を削減していく必要があります。あなたは、青梅市の公共施設を今後どのようにしていくべきだと思いますか？公共施設に対する今後の対策として、適切だと考えるものを全て選んでください。(複数回答可)



【問 5】 市が将来、優先的に維持すべきと思う公共施設を全て選んでください。(複数回答可)
 具体的な施設例は、問 8 の施設例を参考にして下さい。

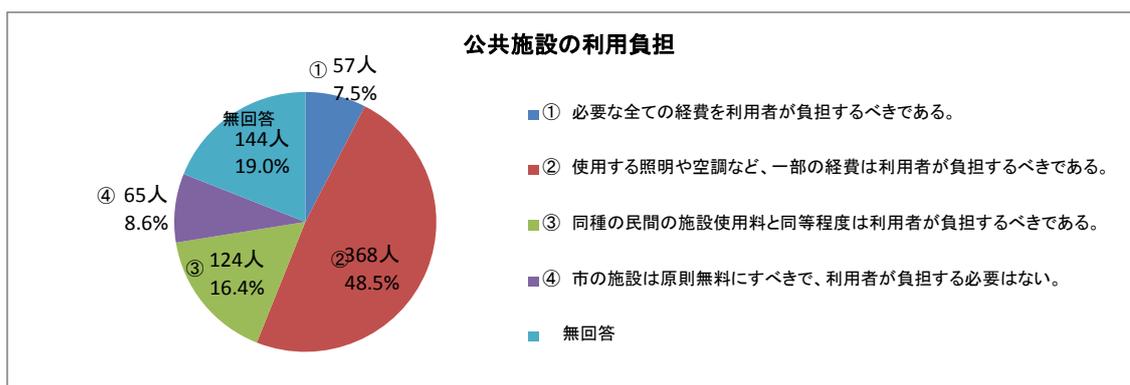


【問 6】 公共施設にかかる経費を縮減するために、公共施設の総量(施設数)を減らしていかなければならなかった場合、どのような施設から削減していくべきだと思いますか。削減しても良いと考えられる施設を全て選んでください。(複数回答可)

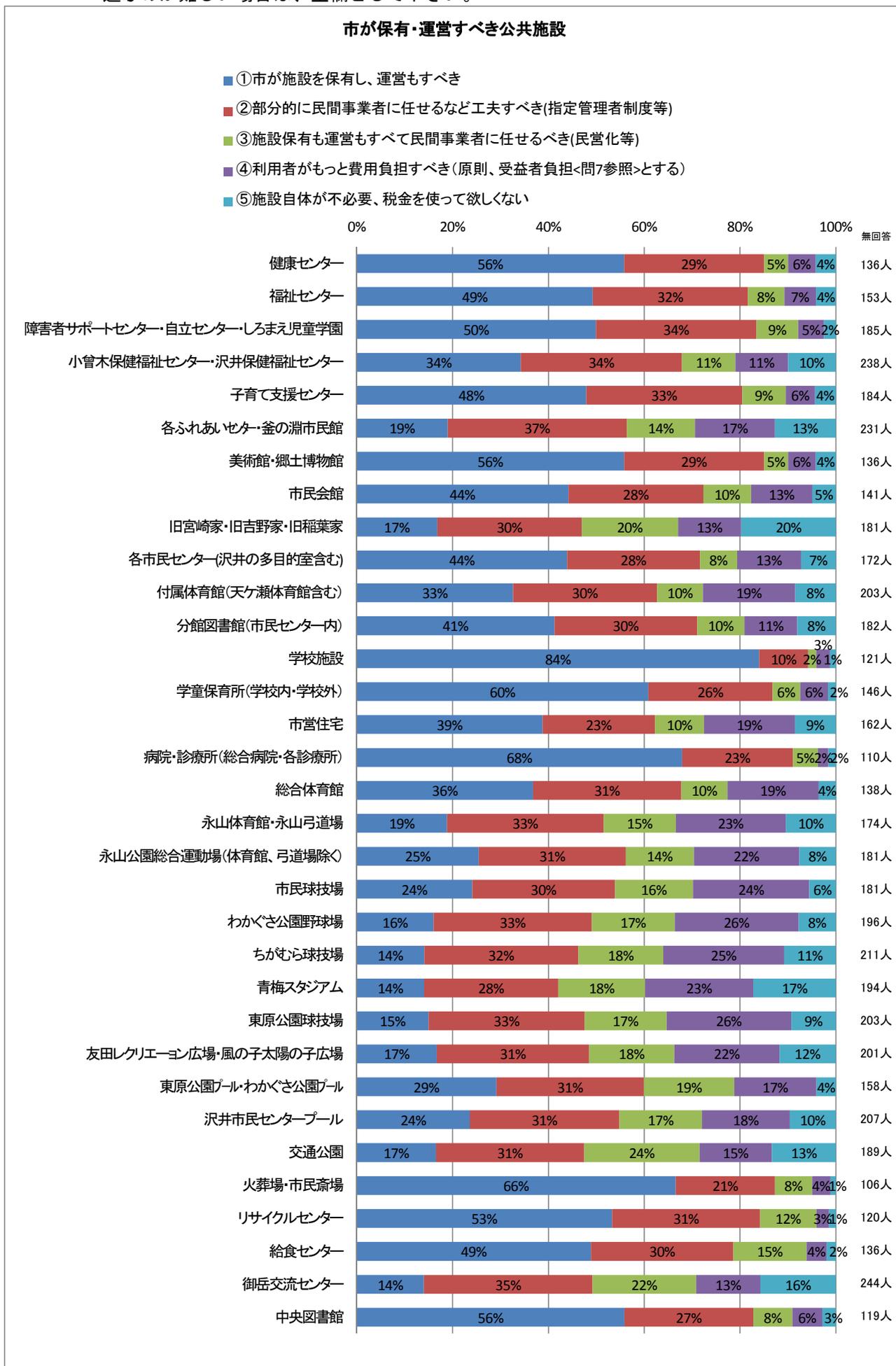


【問 7】 市民センター、スポーツ施設などの一部の公共施設では、施設使用料を支払って頂いていますが、現在の使用料は、施設運営に要する経費の一部であり、残り多くは税金でまかっています。受益者負担<※>の考えから、利用者が負担する費用はどれくらいが適当だと思いますか？あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。

<※>受益者負担・・・公共施設の利用者(サービスを受益する者)が、内容に応じて経費を負担する方法



【問 8】 公共施設にかかる経費を縮減するために、公共施設の今後の運営方法のあり方・サービス(機能)の必要性について、どのように思いますか？以下の施設ごとにあなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。ただし、施設によって、役割がよく解らない場合や、選ぶのが難しい場合は、空欄として下さい。



【問 9】公共施設についての自由なご意見

(頂いたご意見は記入した人の意図が伝わるように、可能な限り原文を尊重して掲載していますが、明らかな誤字は修正するとともに、文末表現を統一しています。)

《市の財政に関すること》

- 市の税収は減り、国の債務も増えている。国の税収は今後も増加しないものと思う。国の予算の半分は借金であり、今の予算が継続すること自体考えられない。結果、国から市への交付金は、大幅に減少するものと思う。今から市財政の見直しをしておく必要が急務と考える。市財政の縮小を図っておく必要がある。
- 生活が苦しい人に厚い手当てや補助を支給しても良いと思う。お金持ちから税金を多く取ることは市や国でもやって欲しい。

《市の職員（人件費・サービス）に関すること》

- 一番の市政の改革は、職員全員の意識改革。以前、職員が缶コーヒーを飲みながら正面玄関を歩いていくのを見た。何故、始業5分前にゾロゾロ入庁するのか。市民の血税を使っていることを自覚すべき。屋上で長時間タバコを吸っている職員、挨拶も出来ない職員など、民間企業ならクビである。
- 子育て中の方が市役所に行き、たらい回しされて怒っていた。自分の部署の仕事に関係することは、しっかりと責任を持ち、親切な案内のできる人を育成すべき。民間企業では働けないような人が多すぎる。民間企業3年以上経験した人を職員として雇用すべき。役所の体質を変えるべき。
- 縁故採用による過剰人員。小さな施設の事務所にあれだけの人数は必要ない。また、対応の悪さも、他市が改善されているに関わらず、変わらない。人件費から最優先で削って欲しい。
- 各所に訪問してもその対応に差を感じる。対応が悪い人もいる。接客のマナーを学習させるべし。職員の天下りも考慮すべきではないか。女性の登用も考慮すべき。
- サービスが悪すぎ、接客がなってない。備品、貸し出し品の管理が悪すぎる。お金の使い方が悪すぎる。
- 市会議員、公務員の給与を減らすことが第一。
- 職員の数が多すぎる、減らすべき。
- 行政側がもっと身を切るべき。民間を見習って欲しい。利用者負担や税金を使う前に、職員が工夫すればより節約できる。職員が使う文房具は自分で用意する。通勤手当、出張費、住宅手当他の大幅見直しもしくは廃止、ボーナスカットなど、民間企業の厳しさと比べたら公務員はなまぬるい。
- 青梅の自然環境は魅力的なため、他市から移る人が増えるようアピールして欲しい。
- 再編は、市の秀でた役人をお願いすべき。
- 市の窓口は忙しいところと、暇な部署があるように思う。もっと対策を講じるべきだと思う。
- 市役所はじめ、施設が、土・日・祝日が休みであることがおかしい。問題の原点。
- 市役所本体も人員を減らすべき、人件費の無駄。

《公共施設の更新・統廃合等に関すること》

- 現況施設にとらわれずに、思い切った施設の統廃合に期待したい。

- 公共施設は使用している者にとっては大変ありがたいため、容易に削減して欲しくない。しかし時代の流れで利用者の減少したものなどは統廃合も考えるべき。無駄は嫌だが、皆がよいと思う施設にお金をかけることは良いと思う。羽村市のような複合施設が青梅市にあればもっと利用するのではないか。青梅市の中心のはずなので、青梅駅周辺が魅力ある町づくりをしないと発展は見込めない。将来のニーズを考えて効率よく建替え、運営して欲しい。
- 子供のいる世帯としては、学校の老朽化は気になる。しかし、少子化が進むなかで、運営も大変だと思う。建替えの際には、小学校だけの機能にせず、一部を市民センターとするなど、多目的に使用できる仕組みを作るとよい。病院や福祉、下水など、公共性の高いものはある程度の出費は仕方ないと感じる。しかし、看護師住居や市営住宅などは、一部の人だけの物となり、民間でも運営できると感じる。市民は多くのものを期待していないように思う。せめて公共性の高いものだけに絞り、満足度を高めてほしい。
- 小・中学校の統廃合や、空き教室、空き施設の多用途での使用なども考えて欲しい。地域コミュニティ施設等の運営は地域自治会などにまかせる。
- 建物の統廃合を進めた方が良くと思う。古い市営住宅や小中学校を数ヶ所にまとめる。アクセスが不便になると思うので、小さなバスでフォローすれば住民の理解も得られやすいと思う。古い施設は思い切って解体する。更地の方が維持コストが安い。
- 最近住民票など必要なく、市庁舎にもほとんど行かない。他のスポーツ施設、図書館なども利用しておらず、私のような人が多いのではないかと。赤字であるならば、どんどん統廃合し、施設を減らし、民間に委託したら良いと思う。
- 必要な物は修復し統合すべき。施設は統合する。一部受益者負担もやむをえない。
- 地区、地域から見れば、不必要もあるが、そこに住んでいる人から見れば必要な施設だと思う。使用したくても、使用の仕方が分からない人が多いと思う。
- 成功している市町村を参考にしてみたい。もっと企業が青梅に来てくれる努力をし、企業の収益により市民全体の税金負担を減らし、住み良い環境の青梅にしてもらいたい。公共施設は、市民の公共の場、不公平なく気持ち良く利用したいものである。時代、ニーズ、利用頻度が少ない施設は取り壊し、複合施設に生まれ変わる新しい施設を検討してもらいたい。
- 私自身は、公共施設をほとんど利用していないので、費用がかかる施設や利用者の少ない施設は廃止にすべきと思う。適切に取捨選択を行い、財政健全化を進めて欲しい。
- 簡易トイレを廃止してもらいたい。
- 小さい施設を複数作るより、大きい施設にしたらどうか。
- 青梅市は広いので、施設を統廃合する際は利用者を考慮し、巡回バス等の検討を願う。
- 305 施設が既存していることを多くの市民は知らない。早急に統廃合、民間事業者任せスリム化を計って市民の負担を軽減して欲しい。実施するには市民のエネルギーが必要である。
- 色々な環境変化に伴い統廃合や多機能を持った施設にするなど、将来を考えた形にして欲しい。
- 運動施設、文化施設、市民センター施設を各1箇所にまとめて、効率的に使用出来るように運営は民間事業者任せすべき。公園が複数もあるが、各地域で子供が公園で遊んでいるのを見かけた事がない。必要のない施設のひとつと考える。
- 旧宮崎家、旧吉野家、旧稲葉は売却してはどうか。
- もしも公共施設が削減されるということになった時に、市民センター付属の体育館など利用頻度が

少ないものから減ってしまうのではと心配。利用頻度が少ないとはいえ子供達のスポーツ教室にも使われて、使う人たちのことも考慮に入れて欲しい。

- 小・中学校は少子化により、以前程の生徒数を維持していない学校があるように見受けられる。学校の統廃合を検討してみても良いのではないかと思う。
- 利用者の少ない公共施設は数年以内に数を減らし、見直すべき。
- 文化・社会教育施設、中央図書館は市役所の中へ移動してはどうか。
- 利用頻度が少なくとも障害者の為の施設等、弱者の為の施設は絶対維持していくべき。

《施設の運営・管理に関すること》

- 災害時の拠点についての記述がなく、不安が残る。災害時の拠点については市でしっかりと維持管理して欲しい。
- 施設の維持管理の為、利用の乱用を防ぐためにも、ある程度の自己負担は必要であると考え。しかし、毎月 2~3 回は利用するので、あまりに高額になるのは賛成できない。現状を維持していただけるよう願う。
- 施設を民間に委託した場合、建物の維持管理等には、注視する必要がある。保守点検等がおろそかにされ、老朽化を早めることになるため。施設の清掃や機械設備などについて、青梅市の施設に合った、標準仕様書や積等基準等を作成しておくが良い。施設の用途によっては他都市の例も参考にすると良い。市営住宅など、災害時に使用出来るものは必要ではないか。
- 305 施設に修繕、改修等が来たと財政状況から喚くこと自体、笑止ごとである。現在新規着工、改修物件に付いては減価償却方式の徹底を確実にいき、毎年見直し、確認する体制を作ることである。保守・改修を見込んだ長期計画が必要であり、マンションなどでは行われている。先ず統廃合すべきは、スポーツ施設ではないか。
- 学校、病院、福祉施設は市で整備、管理した方が良い。体育施設（屋内、屋外）、プールなどは利用者にある程度の負担をしてもらおうとよい。利用状況を調査して不要な施設はなくしていく方向で考える。
- 青梅市は広域なので、公共施設のあり方について考えると、大変難しく感じ、地域の事情をふまえた検討を願う。指定管理者や民営化について、経費削減になったとしても質の管理は市でしっかりと行っていく必要性を感じる。委託する経費だけでなく、内容についてもよく検討して欲しい。
- 利用率の低いものは管理のアイデアが不足しているため、民営化して自由な発想で利用してもらうことが大切と思う。火葬場・斎場等は安定的収入及び管理費用得るために植樹墓地を造り、管理費用等を一括で取り、貯蓄運用して行くことで長期の管理体制の構築をはかって欲しい。

《施設の民間活用等に関すること》

- 市庁舎が大変立派なので財政事情が大変だとは思もしなかった。より周知徹底し、不要なものは無くし、民間に移せるものは移すべき。バブル期のように、何でも揃える必要はないと思う。民間企業を見習うべき。
- 民間に移行出来るものはする。もしくは、料金の値上げ。このままの状態だと、これからの子どもたちに大きな負担を残すことになる。青梅に住みたいと思える街にしていくべきでないか。市債をもっと減らすべき。このまま人口減少が続けば青梅は将来なくなっているかもしれない。

- 公共施設の経費削減は必要。しかし、病院等は市民にとっては重要な施設。施設等の運営等について、もっと民間の力を導入すべき。例えば、給食センターにおける民間業者の参入など必要だと思う。人件費の削減など積極的に取り組んでほしい。
- 民間業者に任せられるものは、任せたい。
- 市の財政が厳しい現状は理解出来るが、未来を担う子供たちにとって必要な施設は、積極的に改修や新設をすることが求められていると思う。民間の力を上手に活かし運営管理をすることが良い流れを作り出すのではないかな。
- 利用人数の多いものは残し、民間委託、第3セクターの設立、もしくは、廃止など、経費削減を考えて欲しい。年金暮らしの老夫婦には、税金が安い方が助かる。
- 民間に同様のものはないかともいいと思う。
- 民間事業者に任せることによって、経費を削減することが出来るのであれば、考えるべきである。
- 行政の使命である市民の生命と財産を守る。これに対する公共施設の必要性を考えて直営かどうかを考えてもらいたい。
- 青梅市の給食の内容を検討してほしい。羽村の給食はおいしい。給食センターは民間に託した方が内容の質が向上して、滞納者が減るのではないかな。
- 火葬場、市民斎場の予約などは、市役所の職員が予約を取った方がよい。警備の方は、警備だけの仕事をすればよい。
- 福祉施設は、指定管理者へ移行。文化・スポーツ施設は、建替えにあわせて、定期借地やPFIで建設から民間に任せる。福祉施設のうち、介護保険など、市場がある程度安定しているものも定期借地などにより建設施設維持管理経費の削減を進めて欲しい。

《施設の利用料金・受益者負担に関すること》

- 病院、障害者センター、学校など、市民にとって、生活上必要な施設は極力利用料金を少なくし、貧富の差に関わらず利用できるようにして欲しい。その他施設においては、利用者負担や民間企業へ移管等することで経費の削減を行うといいと思う。生活上必要な施設を利用しやすくすることにより、子供の数が増加して、将来的に人口増加や税収増加に繋がりがやすくなる。
- 利用者の負担が少なすぎると思う。
- 本当に一部の人がしか利用していないため、市民全員の税金を使うことがよいのか。払いたくないという思いもあるはず。何十年も前から青梅市民だが、利用料金が変わっていない施設がある。時代に合わせて値上げして良いと思う。
- 税金を払っているのだから使用料は上げるべきではない。
- 無料は良くない。受益者負担が原則である。例えば、図書館を利用し、勉学に勤しむ事は大いに結構なことであるが、その場を数時間利用するということは、光熱費、上下水道代等々担当の管理費が必要で、何処へ行って何をしようとするに経費はかかる。公共施設であるが、維持、管理費、人件費は同じようにかかるので、利用者は相応の負担をすべき。
- 利用に関する広報活動やイベントの誘致や開催など、まず公共施設の利用頻度（稼働率）を上げる努力もすべき。
- 市外の利用者には利用料をやや高く設定すべき。
- 公共施設は、年を取ってからの介護料を下げるためにも、個人負担を少なくして欲しい。他の市町

村に比べ利用料が高い。午前、午後に分けているが、時間単位にして欲しい。

- 公共施設の受益者負担がどれくらいの割合なのか良くわからないので答えられない。
- 施設白書には、運営、維持管理に要する費用が市民1人当たりどの位必要か記載して頂きたい。
- 公共施設を利用するにあたり、民間と比べると市の施設は無料で、とても暮らし易いと思うが、財政が困難であれば、市民に利用料を少し負担してもいいと思う。しかし、子育て世代や高齢世帯は、生活していただくだけでも精いっぱいという人々もいるため、所得の多い人に少し補ってもらった方がいいと思う。他には市にある会社に税を負担してもらおうなど。あまり施設利用料が高く、子供や高齢者が使いにくい公共施設ばかりだと人口が流出し、更に財政困難になってしまう。

《公共施設（全般）に関すること》

- 生活していくなかで、最低限必要な施設（病院、福祉施設、火葬場、斎場など）は残して欲しい。市民の税金などの負担を増やすだけではなく、民間企業などにも運営に加わってもらい、今までと同じように使えれば良い。
- 自然が美しい青梅だが、駐車場やトイレが少ない。ひと休みしたくてもコンビニしかない。市直営の売店があれば良いと思う。駐車スペースがあり、トイレ休憩が出来て、小腹がすいたらお茶やコーヒーおにぎりなどあれば尚良い。
- 交通手段が無く、不便な場所の住民が公共施設を使用しやすい方法を考慮すべき。
- 自治会活動に必要な公共施設は市が保有、運営すべき。防災を第一に考えて欲しい。
- 子育て世代としては、支援センターや近くに市民センターがあることで助かっている。反面、老朽化した小・中学校に子どもを通わせること、学童施設が充実していないこと、その他福祉施設が充実していないことは不安。未来ある子供たちにとって、実りのある配分にしていただきたい。
- 子供や高齢者が住みやすく、成人には働きやすい市になっていけば良いと思う。住みやすく、暮らしやすく、働きやすい市を希望する。
- 個々の要望はきりがなく、かつてのような多様化に対応する時代ではなくなった。行政をあまりあてにしない自己管理、自己責任が必要。「無いよりは有った方が良い」ではなく、必要かどうかで判断することが大切と思う。声の大きい人の意見が皆を代表する意見とは限らない。
- 市民の文化活動を盛んにするために、是非、公共施設の拡充を希望する。
- 自宅遠くの施設は利用していないのでよく解らないが、近くの施設はよく利用している。
- このアンケートで全般的に思った事は、公共施設を建てた時は、必要に応じて造った建造物で、それを利用している方や、少人数であっても、この施設が無くなったら困る人の声を知らない状態で判定することに非常に迷った。私は、公共施設は殆ど利用していないので各施設の役割、必要性はよく分からないが、東京ドーム8個分に及び、市民にサービスを提供して来たことはそれなりの役割は有ったと思う。これからは市民の税金を有効的に活用でき、将来青梅市を支えて行く子供達、若い人に喜ばれる計画を立てて欲しいと思う。
- 利用されていない施設については、なくなっても困らないと思うが、市民センターなどは、その地域の人達のためにきちんと整備をしておくべき。災害時に避難する場所や指示を出せるような環境は身近に存在していなければ意味がないので、減らして欲しくない。
- 診療所や火葬場のような生活上必要な部分はやはり維持してほしい。
- 市内の公共施設を、紙面で確認すると、こんなにも沢山あるのか、と驚いた。修繕や改修、建替え

以前に維持している費用を考えると早急に削減しなくてはならないのではないか。平成 22 年に、多額の新庁舎建設も多くの出費をしていて、支出した件に関して不満である。公共施設にいる市の職員の方々、暇そうに見え、公務員としての仕事の内容など、見直しが必要と思う。

- 交通の便の良くない地区に住んでいる方や高齢の方、子育て中の方などそれぞれの立場で必要な施設や負担に対する考え方も違って来るから、軽々しく回答できない。
- 利用頻度の少ない公共施設は不要と思う。その分、子育て支援や福祉に税金を使って欲しい。
- 東青梅福祉センター、老人センター、学童保育、火葬場、市民斎場はどうしても大切。図書館は、民間に任せると良い。又、公園に老人用遊具は、1人20分位譲り合えば、公園も明るく楽しくなると思う。年金暮らしのため、なんとか生きる事を考える。
- 住民の数に対して、市民センターやスポーツ施設が多い。学校の校舎が古く、もう少し綺麗にしてほしい。
- 中途半端な施設をいくつも持つのではなく、しっかりした施設を1つもつ方が良い。市民センターは各学校の施設を使えば良い。
- 消防施設他が多い。床面積は広くないが、数が多いと言う事は維持費が必要となるのではないかな。消防団員をやる方は現在も多数いるのだろうか。子供の施設を減らす事はやめて欲しい。なくなると働き手の若い人が市内へ住まなくなる。年寄りを優遇するのでは、これからの青梅に未来がない。
- 梅郷、沢井、小曾木など市の中心から離れている市民センターなどは残した方がよい。各市民センター内の図書館も学校帰りに子供が寄れるので残すべき。アンケートだけに頼らず、市民の声をちゃんと聞いてから、公共施設を建て替えや、無くすなど検討した方がよいと思う。
- 市民センターの部屋を借りて週一程度利用しているが、現状でも希望の日時に場所が取りづらい状況。これ以上減ってしまうと意欲的に活動したい人たちにとっては、とても不便。的確に不要な施設整備や民間委託等で負担をへらすようにして、もっと市民が活動できる場が増えると良いと思う。施設利用費が上がっても無くなるよりは良い。
- 老後を豊かなものにする為には、地域の市民センターが重要な役目を果たすと思う。他人に頼らず、徒歩で行ける各地の市民センターの維持を希望する。
- 子供達の育成、福祉、病院の充実、災害時の施設確保。市全体もしくは地区ごとの訓練参加などの機会が増えるとよい。公共施設の利用がほとんどない施設は、廃止すべき。
- 観光客に利用してもらえるトイレを増やし、案内板をつけると、安心して歩き廻って、お金も使ってもらえると思う。
- 建築はコンクリートで作ると後の修理・解体・管理費等が多くなりやすいなど転用が難しくなる。防災等は考えなくてはならないが、新しい発想を持って色々な方向から検討して新設するものは実行して欲しい。新規に設備等を作るときは住民に出来るようなボランティア仕事を呼び掛け、皆で協力して作る心を大切にして、後の運営にいかしてほしい。
- 閉鎖する施設、または民間業者に委ねる施設が今後増えて行こうとする中で、次の世代にはどういった施設が必要なのかを考えるのも必要。特に閉鎖が進んでしまうと単純に利用者が減ってしまい、地域の活性化にもダメージがあると思う。青梅駅周辺も一時期観光客も増えたが、現在はどうか。若者たちが集まる様、思考を変えてはどうか。
- 病院、消防、ライフライン関係は最優先。図書館も民間ではそのような施設はないかと思うので、これまで通り維持して欲しい。

- 年齢的に、興味は、市民会館、病院、これから葬場くらいで、学校、体育館、子育て支援センターなどに関心がなく、皆のことを考えた意見とは思えない。
- そもそもどこに何があるかわからない。わかってても遠くて行く気が削がれる。
- 駐車場がどこも狭くて使いづらい。台数も少なくていつも困る。

《新庁舎に関すること》

- 市役所にお金を多く掛け過ぎ。お金が無いと言いながら市民の声をもっとよく聞くべき。体育館を整備して貸し出すべき。小、中学校、体育館の料金を安く、利用者を多くすべき。
- 新庁舎建設に税金を使いすぎ。その分、市民にしわ寄せが来ている。
- 市役所のレストランが楽しみだったが残念。
- 何故あのような大きな市役所を建てたのか。あんなに大きなものが必要なのか。
- 将来を担う子供の教育と私達が日常使う施設は大事にしてほしい。それよりも無駄の多い市庁舎の有効利用を考えて、収入を図るべきだと思う。
- 人口の減少が分かっているながら、市役所が立派すぎる。
- 市役所が立派すぎる。市役所にお金かけすぎ。
- 前回市長選の時に、市役所建設の見直しが争点になったにもかかわらず、大きな箱物を作り、その数年後には経費がないから他の建物は見直しを、という考えに失望する。地域、利害関係のエゴに振り回されることなく青梅全体の将来を考えて欲しい。

《図書館に関すること》

- 分館図書館について、私の育った市は財政的には厳しかったが、バスを改造した移動図書館があった。決まった曜日に決まった場所に来ていた。
- 中央図書館について、毎月たくさんの図書やAVが入るが、誰がどのように選別しているのか明確にして欲しい。
- 中央図書館は、下が板間で靴の音がコンコン響いてうるさい。作る前から板間にすれば、靴の音が響くのはわかるはず。
- 中央図書館について、意見箱がなく、利用者にとってより良い図書館にしていこうと言う姿勢が感じられない。不具合箇所が一向に改善されない。給水器の設置が必要。一部に喫茶室を設けて憩いの場を提供すると共に収入源を考えるべき。経費節減から踏み出すべき。蔵書が少ないように思う。エレベーターに冷房が無い為、夏場暑い。評判の良い他市の図書館を見学し、良い処は見習い、取り入れるべき。民間の良い処を取り入れるべく、民間との提携や業務委託等も将来、視野に入れるべき。
- 青梅図書館の自習室が、隣の子どもたちの声でうるさい。こどもサロンの中ならともかく外の席で、ゲームをして騒いでいるのが響く。改善してほしい。
- 中央図書館を利用するにあたり、駐輪場に自転車を止めようとした所、違法駐輪のために、他の場所に停めるよう言われた。正当に図書館を利用する人に対する言葉だとは思えない。
- 図書館蔵書が少ない割には人が多すぎる。

《青梅市立総合病院・医療に関すること》

- 青梅市民のために何が優遇されているのか。何十年も青梅在住だが、命にかかわる救急搬送の際も断られ、遠くの知らない病院まで運ばれ。多摩の住人の為の病院なら、市の税金は使って欲しくない。
- 青梅市に税金を納めながら近くの病院に通院出来ないのが残念。数年前、紹介状を持参し、青梅総合病院に行っても受け付けてもらえず困った。かかりやすくして欲しい。
- 総合病院は早く民間に移すべき。公共でやるべきでない。
- 医療施設は優先的に維持して欲しい。

《市民会館に関すること》

- 市民会館は比較的、利用者が幅広く、市外からの交流活動も盛んで、大勢の来場者も見込める場である。しかし、施設の老朽化に足も気持ちも遠のいてしまう。市の象徴にもなる公の施設は、早急な対策、第一優先に建替えの検討を希望する。
- 市民会館を建替えて欲しい。羽村のような音響の良い施設を望む。青梅市民は、楽しみに待っている。
- 青梅市民会館を、青梅市を代表する文化施設として充実させてほしい。広いスペース、充分な駐車場を確保するために移築も検討してほしい。
- 市民会館で行われている無料の映画などは不要。無料である意味が分からない。

《市営住宅に関すること》

- 親と同居している。いずれは1人暮らししたいと思っているため、自立しやすいように市営住宅を駅の近くに作って欲しい。車も免許もなく、収入もさほどなくとも、独り立ちできる環境を作って欲しい。
- 市営住宅がなくても、市内に都営住宅があり、空きもあると聞いている。
- 青梅市は障害者のいる家族が住める住宅が少ない。
- 民間に同様のものはなくてもいいと思う。市営住宅が例、市民全体で必要なものを優先してほしい。
- 生活保護を受けている人は、空いている市営住宅に住んでもらうべき。生活保護者への年末の補助は高すぎる。年金生活の世帯はどうすればよいか。

《美術館に関すること》

- 美術館は、よい施設だがあまり利用市民が少ない。以前から赤字経営だとは聞いていたが、もう少し集客する目標を定め、わかりやすい展示に工夫したら、もっと足を運ぶ人が増えるのではないかと。喫茶室も、改装する時期に来ている。
- 美術館などは民間に委託することにより良い企画があるかもしれないし、職の公平も保てる。

《体育施設に関すること》

- 青梅スタジアムがどのように利用されているか聞いたことがない。売却すべし。風の子太陽の子広場の中をよく歩くが、キャンプ施設などは市でやる必要はないし、利用客も見かけない。

- 河辺グラウンドは、いつも一杯でなかなか使用できない。
- 球技場、野球場が多い。利用者がより費用負担すべき。
- 高齢者が安全に運動出来る場所の確保と、指導者の確保し、病院に行く高齢者を少なくして医療費の削減になればよい。
- メタボにならない体づくりを推進して、運動して健康な体で長生き出来るようにとの事なので市内の人は体育館の利用は無料にしてほしい。
- スポーツや娯乐的なものは民間にまかせる、料金を負担させるなどしても構わないと思う。
- 外から来て感じた事は、体育施設の異常な多さと、文化施設の異常な少なさです。いつまでも、青梅が他地区からワンランク下に見られる大きな要因としてとても恥ずかしく思う。
- 球技場が多いので、陸上競技場があると青梅マラソンに利用できると良い。

《プールに関すること》

- プールに関しては利用期間が約2ヶ月と短く、使用していない期間が長すぎると思う。公共施設として必要だが、使用していない期間の無駄をなくせるといいと思う。
- プールについて、屋内プールを設置する等、年間を通して利用できる物を作って欲しい。総合的な子供を遊ばせる建物を希望する。
- 釜の淵のプールをなるべく早く利用できるようにしてほしい。他まで行くのが不便のため。
- 指定管理者制度や民営化などで釜の淵プールを復活させて欲しい。現在プールは遠すぎて子供達だけで行くことが出来ない。閉鎖するにあたり、アンケートなどはとっていたのか。急に閉鎖することになったように思う。子供達の楽しむことのできる場所は奪わないでほしい。
- 学校のプールの活用を考えるべき。

《市民センターに関すること》

- 東青梅図書館の入口付近の下水のような悪臭が気になる。自宅から近いが、利用する気にならない。
- 市民センターなど無くなっては困る。住民票など必要な時によく利用するため。利用者負担額が高くなると利用率が下がると思う。高齢化社会に向けてこのような施設は、交流の場として必要。
- 各センターに風呂がある所があるが、近所の人しか利用してはなく、遠方の方は一度も利用してはなく、不公平なので不要である。
- 各市民センターで住民票など取る場合、近くで取れるのに、通信費を取られるのは反対。東青梅市役所近くの方が有利に思える。

《その他の各公共施設に関すること》

- 交通公園の職員の態度が悪い。子供達に交通マナーを教える場所なのに、子供はビクビクしながらの利用になっている。市の施設なのでもっと気持ち良く利用したい。
- 特に、東青梅センタービル、中央図書館が無駄だと思う。

《各施設の設備に関すること》

- 各市民センター、社会教育施設にそれぞれしっかりとした設備（プロジェクター、スピーカー、ビデオデッキなど）を備えて頂きたい。

- より空調設備を設置すべき。

《アンケート調査に関すること》

- 本アンケートの母数が少なすぎる。18才以上無作為ではなく、各年代で一定数抽出し、広く意見を募るのはいかがでしょうか。年代により利用施設が違うため、偏った結果になるのではないかと不安に思う。
- 今回のようなアンケートは大切。必要なものは、必要なものとしてお願いしたい。
- 利用の内容は幅広いので解答に苦心した。
- 現在の管理体制を良く分からないので部分的にしか回答することが出来なかった。
- 今後この計画を実施するに当たっては「市の現状と課題」等について、市民に充分周知し、理解を求めて頂きたい。
- 経費縮減が目的でのアンケート自体疑問である。青梅の自然・文化等を他市町村からあるいは他府県から来てもらえるような方法を考えるべき。
- 公共の施設はほとんど使っていないからわからない。
- 施設がたくさんある印象は受けるが、役割がよく分からない施設も多い。うまく再編していかなければならない。実際に利用している人にアンケートすべき。ランダムに選んだとしても、利用していない人の意見はあまり参考にならない。
- 市民の意見を聞くアンケートは、良いと感じる。

《その他》

- 無償で配布しているリーフレット、案内等の印刷物は良質の紙を使用する必要はあるのか。
- カラーコピーの書類添付はもったいないので、白黒コピーにした方がよい。
- 紙の削減で、スーパーに大量に置かれている広報などは不必要と思う。小さな事から無駄を無くしていった方がよい。
- 公共施設については特にはないが、大雪の際、除雪の対応が遅いと感じた。自ら除雪することも大切だが、手作業でやるのは限度があり、道路等は難しい現状がある。雪の対応の遅さには本当にイラ立ちを感じた。他の市は除雪が早く、車が通れるようになっていて、一体市民税は何に使われているのかと腹が立つし、市民税が高いとも感じる。迅速な対応を願う。
- 資源回収の報償金は無くしてほしい。ボランティア精神で資源回収をしてもらいたい。無駄使いしている所が沢山あり、現在のニーズに合わせたやり方をしていけないと思う。
- 東青梅駅（北）にエレベーター、あるいはエスカレーターを希望する。
- 公共施設の市職員定年退職者の受け入れを先にするのは不公平。民間会社退職者にも公平に機会を与えるべき。
- 競艇場を売却すべき。